

第7回全国中学校（教科）柔道指導者研修会

《国庫補助事業》



主催：公益財団法人 日本武道館
公益財団法人 全日本柔道連盟

後援：スポーツ庁

期間：平成28年6月17日（金）～19日（日）

会場：日本武道館研修センター

参加者：63名

本研修会は中学校武道必修化の充実に向け、授業で安全に楽しく効果的な指導ができるよう、指導力の向上を目的に毎年実施されている。第7回を迎える今回は、昨年11月に行われた平成27年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業の研究者が実技講習の主担当を務めた。

【開講式】



高橋進全日本柔道連盟中学校武道必修化対策WG主任

「これまで授業時間数8～10時間という実態に即し、MUSTの授業に焦点を当てて取り組んできました。今回の研修会は、その総まとめとなり得ると思います。参加者の先生方からもいろんなことを投げかけていただくことで、新たな課題が見えてくるような研修会にしたいと考えています」

「これまで授業時間数8～10時間という実態に即し、MUSTの授業に焦点を当てて取り組んできました。今回の研修会は、その総まとめとなり得ると思います。参加者の先生方からもいろんなことを投げかけていただくことで、新たな課題が見えてくるような研修会にしたいと考えています」



三藤芳生日本武道館理事・事務局長

「柔道を専門としない参加者の先生方が十数名いらっしゃいます。大歓迎をいたします。この研修会の目的は、授業で行う人間教育として

の柔道の在り方を学んでもらうことです。良い指導というのは、目標・計画・実行・評価・修正、その繰り返しです。本研修会は、日本を代表する先生方に直接指導をいただける良い機会です。是非、意欲的に取り組み、学んだ成果を各都道府県に持ち帰っていただきたいと思います」

【講習①】

鮫島元成講師（スーパーバイザー）が「講道館柔道について」の講義を行った。「柔道は人づくり・人間教育である。強さと共に人格が伴って、初めて柔道が教育といえる」と柔道修業の目的を説いた。また、受け身の取扱い・具体的な知識について、「嘉納治五郎師範が『受け身』という言葉を使ったのは、昭和に入ってからであり、明治大正時代は、『倒れ方・転び方』とおっしゃっていた。まさにその通り。転んだ時または倒れた時に、如何に自分の身体を守り怪我をしないか、それが受け身である」と説明した。



【講習②】基礎知識・導入
指導上の基礎知識の講習。「生徒の身体的実態(体力傾向等)を把握した上で、授業を行うことが安全対策につながる」



【講習③】礼法・基本動作
基本動作として、組み合った状態で、相手と押し合う・引き合う練習。「押す・引くだけでは人は倒れない。だから技が必要である」



【講習④】受け身
人が後方に倒れるとき、頭部も後方に大きな負荷がかかる。後ろ受け身をする際は、頭部の意識を前方に集中するように指導しなければいけない。



【講習⑤】膝車
膝車の段階的な指導。受けは、膝を付いた状態から技をかけられ、受け身を取る。投げ技の指導は、低い→高いを心がける。



【講習⑥】体落とし
畳の継ぎ目の線を利用した体落としの指導。畳の継ぎ目の線を意識することにより、より正確な足さばきが身に付く。



【講習⑦】大腰
大腰の段階的な指導。始めに、相手に腰に乗せる感覚を養う。グループワークとして、3人目の生徒が腰の位置・膝が曲がっているか等を確認する。



【講習⑧】固め技基本
横四方固めの指導。相手の柔道衣の掴む位置を明確に伝え、自分の胸と相手の胸を合わせるように意識する。



【講習⑨】基本動作・抑え技
けさ固めて抑えられた状態からのてっぽう返し。受けと取りが交互に繰り返すことにより、相手が身体に乗る感覚を養う。



【意見交換会①②】
9つのグループに分かれ、指定されたテーマに沿って話し合った内容を代表者が発表。指導上での悩み・各参加者の考え方等が発表された。

【講習⑩・総括・閉講式】

講習⑩では、磯村元信講師が「評価の考え方の実際」の講義を行った。他の武道種目と比較し、「柔道は技能として提示されている技の数が圧倒的に多い」と、柔道の特性を説いた。また、『「関心・意欲・態度」』『思考・判断』『技能』『知識・理解』の4つの観点から総合的に評価することが大事であり、『技能』の習熟のみ、つまり技や受け身の上手さのみで評価をしないよう留意が必要である」と述べた。総括では、

向井幹博講師より「柔道は安全ですか?」と聞かれた時の回答として、『「ルールを守って正しく学べば、柔道は安全です』というのが一般的な回答だが、『柔道を学べば、いろいろな危険から身を守ることができます』とポジティブな回答をしたい』と、自身の考えを述べた。閉講式では、高橋進講師が、「これまでの成果の総まとめであり、再スタートとなる研修会になりました」と講評を述べ、研修会の全ての日程が終了した。